

気軽に文化講座「コミュニティ・カレッジ in 内子」 令和7年度カリキュラム

10月22日は18:30
より！時間の変更

愛媛大学地域共創研究センター/気軽にコミュニティ・カレッジ in 内子懇話会/内子町教育委員会 共催プロジェクト
会場はいずれも内子自治センターですが、ライブ配信による聴講を希望される方は、Zoomを利用して聴講できます。

詳しくはうら面をご覧ください。

開催月	講 座 内 容	講 師
5月22日(木) 19:00~20:30	人口減少社会と文化とまちづくり ―「開かれた歴史実践」と「集落のアーカイブ」をめぐる― 私たちはなぜ文化を守る必要があるのでしょうか。文化とは「人間が人間らしく生きるために極めて重要であり、人間相互の連帯感を生み出し、共に生きる社会の基盤を形成するもの」(文化庁)とあり、文化もまた私たちの社会を支える役割と機能があります。人口減少の時代になり、私たちは文化の役割や機能を実感する機会が増えました。本講演では、内子町で取り組んだ14年間の文化実践を振り返りながら、「開かれた歴史実践」と「集落のアーカイブ」の重要性について考えたいと思います。	井口 梓 愛媛大学社会共創学部助教 地域共創研究センター センター長 専門：文化資源マネジメント
6月12日(木) 19:00~20:30	夕食から環境と社会を考える ―フードマイレージ教材を使った環境学習― 私たちが口にする食べ物は、世界や日本国内の産地のどこから運ばれてきています。社会経済状況の変化に伴って、私たちの食生活はこの50年で大きく変化しました。この講義では独自に開発したフードマイレージ(食料(=food)の輸送距離(=mileage)という意味)教材を使って、みんなで学びます。フードマイレージを知ることによって、私たちが地産地消などの日常のささやかな取り組みが地球環境や食文化の持続につながっていくことができます。	松村 暢彦 愛媛大学社会共創学部 学部長 地域協働センター南予 センター長 専門：地域計画・環境計画
7月17日(木) 19:00~20:30	「見える」健康が「変わる」健康へ ―はかることから始める健康戦略― 近年、日本は急速な高齢化社会を迎え、健康寿命の延伸が大きな社会的課題となっています。元気で自立した生活を維持するためには日常生活における体力の維持・向上が不可欠であり、住民一人ひとりが自分の健康状態を知り、適切な対策を講じることが重要です。本講演では体力測定を行い、皆さんの運動能力を「見える化」します。得られた記録と自己分析を通じ、健康課題を発見し、無理なく続けられる改善策を皆さんと一緒に考えたいと思います。	立岡 光臨 愛媛大学社会共創学部助教 専門：健康スポーツ科学
8月28日(木) 19:00~20:30	民俗学者・宮本常一の「まなざしの継承」 ―愛媛県内子町をフィールドにして― 民俗学者の宮本常一(1907~1981)は生涯にわたり全国の農山漁村を旅し、土地に息づく暮らしの文化を記録しました。そして人びとの豊かな暮らしの在り方を模索し続けました。本講演では、その宮本が内子町で撮影した写真を読み解く共に、宮本常一の旅の在り方を振り返り、どのようにすれば地域の「光」を見出し共有することができるかを参加者の皆さんと一緒に考えることができます。	高木 泰伸 愛媛県立医療技術大学 非常勤講師 宮本常一記念館 元学芸員 専門：歴史学・民俗学

9月18日(木) 19:00~20:30	人口減少下における文化財管理の課題と可能性 過疎地域をはじめとする条件不利地域では急激な人口減少と少子高齢化の進行による地域の衰退が進行しています。地域の衰退は文化財の消失や散逸の危機につながることから、その持続的な管理について文化財継承の担い手の確保とともに社会全体で支えていく体制づくりが急務となっています。本講演では四国地方を対象として人口減少からみた文化財管理の課題を考えるとともに、無形民俗文化財を事例としてその課題をしなやかに受け止める可能性について考えます。	渡邊 敬逸 愛媛大学社会共創学部 准教授 地域共創研究センター センター員 専門：地理学
10月22日(水) 19:00~20:30 18:30~20:00 講座後、懇親会実施 参加費 1,000 円 (学生 500 円)	関係人口と共働して博物館と飛騨市を未来へつなげる 過疎化が著しい岐阜県飛騨市に飛騨みやがわ考古民俗館が所在します。当館では、誰もが取得者にも発信者にもなるあり方で発信を進め、市内外の支援者が積極的に関わる仕組みを整えました。その結果、当館を通じて市に心を寄せる関係人口が増加し、来館者が 10 倍、寄附も 8,000 万円が集まりました。この一連の過程は、人口減少や文化財・博物館業界の担い手不足という課題の解決につながる可能性があります。文化を通じて仲間やファンをいかに増やすのか、意見交換したいと考えています。	三好 清超 飛騨市教育委員会 課長補佐(学芸員) 専門：古代瓦・ 文化財行政
11月15日(土) 13:00~15:30	内子の町並みを歩いて文化財の見方・楽しみ方を知ろう！ 最近ではデジタル機器の発達により、簡単に情報を得ることができま。しかし、現地に赴き見たり聞いたりする、いわばアナログな行為は想像以上に多くの知見・情報・感動をもたらしてくれます。本講座では、内子町八日市護国伝統的建造物群保存地区を歩きながら、特に上芳我家住宅と八幡神社の建築史的特色、さらには建物(住宅建築や神社建築)・絵馬といった文化財のどこでも使える見方・楽しみ方について実物を前にお話します。	佐藤 大規 愛媛大学社会共創学部 准教授 地域共創研究センター 副センター長 専門：文化財学
12月18日(木) 19:00~20:30	県内の人口減少の状況と対策 令和4年度に発表した県の推計人口では、このまま何もせず人口減少が進行すると、2020年に133万人の人口が、2040年には106万人、2060年には78万人にまで減少するとされており、人口減少対策は待ったなしで取り組むべき課題です。本講演では、県内の人口減少の状況や県で実施している対策をご紹介しますながら、住み続けたい・戻りたい愛媛について皆さんと一緒に考えたいと思います。	岡田 文夫 南予地方局地域産業振興部 部長 専門：南予の地域振興
1月22日(木) 18:30~20:00	芭蕉の可能性について 芭蕉の葉や茎を活用することで、肥料としての利用だけでなく、繊維からはセルロースナノファイバーを抽出することも可能です。現在、そのナノファイバーの活用方法についても模索を進めており、芭蕉は循環型資源として多方面での活用が期待されています。	大洲農業高等学校
2月5日(木) 18:30~20:00	私たちの探究活動を紹介します 2・3年生は、「総合的な探究の時間」で14の領域(観光、インバウンド、ビジネス、メディア、食文化、大規模、イベントの企画・運営、イベント参加、防災、医療・福祉、子ども、食と栄養、運動・スポーツ、環境美化)に分かれて、課題研究に取り組んでいます。本校で1月開催予定の全体発表会のうち、特に優れたグループを3つ選び、皆さんに聞いていただきたいと思います。アドバイスよろしくお願いします！	内子高等学校

- 会 場：内子自治センター 1階 多目的ホール(11月講座は現地へ移動あり)
- 受 講 料：年会費2,000円/ご興味のある講座のみの受講も可能(各講座500円) 但し、高校生は無料
- 問い合わせ：内子町教育委員会 自治・学習課 Tel0893-44-2114
気軽にコミュニティ・カレッジ in 内子 懇話会会長 森長照博 Tel0893-44-2094
- ライブ配信による聴講を希望される方は、受講日前日までに下記のメールアドレスにご連絡ください。
自治・学習課代表メール gakusyujichi-s@town.uchiko.ehime.jp